『令和８年度　身寄りなし問題研修会』に参加して

報告者：　上市町社協居宅介護支援事業所　重倉　志津子

令和８年10月15日（木）サンシップとやまにて『令和８年度 身寄りなし問題研修会～身寄りなし問題をケアマネジャーが一人で抱え込まないために～』が開催されました。





今回は身寄りなし問題研究所代表の須貝秀昭氏に講義をいただきました。



身寄りのない高齢者への支援について家族がこれまで担ってきた意思決定への協力、身元保証、金銭管理、葬送などの機能が失われている一方、現在の制度は依然として家族の存在を前提としていることが、さまざまな問題の背景にあることを学びました。また、今回の研修でケアマネジャーが抱えるシャドーワークは単なる業務負担の問題ではなく家族が担ってきた機能を社会全体でどのように補っていくかという地域福祉の構造的な課題であると認識いたしました。


講師 須貝 秀昭氏



身寄りのない高齢者の生活を支える中で制度上のサービスだけでは対応できない課題に直面することは少なくない。しかし、本人の生活や安全を守りたいという思いから、ケアマネジャー個人が制度外の対応を引き受け続けることは専門職としての負担を増大させ継続的な支援を困難にする可能性があります。



今後の社会福祉制度の改正や成年後見制度等の動向を注視し、必要な支援体制や制度の改善について現場で把握した課題は地域ケア会議等を通じて発信していくこともケアマネジャーに求められる役割であると思いました。

また、目の前の利用者を支援することにとどまらず現場で生じている課題を地域や社会全体の課題として捉え地域資源の構築や制度改善への提言につなげていくソーシャルアクションの視点を持ち今後の実践に取り組んでいきたいと思います。